

砂川めぐり

名前でたどる歴史

立川市・砂川くすながわ>

現在の立川市がどうやって成立したか、みなさんはご存じですか？

昭和38（1963）年、立川市（旧柴崎村、立川市域の南半分）と砂川町（旧砂川村、立川市域の北半分）が合併することで現在の立川市となりました。立川市は、二つの自治体が合わさってできた市なのです。

今回は砂川町にスポットを当てみたいと思います。



凡例

■ 主要な建物

◆ 多摩モノレール駅

◆ 西武線駅

● 交差点標識設置場所

● バス停留所

● 公園・その他

● 橋

・この地図は最新版の立川市役所発行『立川市市民マップ』と立川市教育委員会発行『立川を歩く』を元に作成した地図です。表記されている道路名は現在使われているもので、砂川の昔の地域の呼び名に関連・由来するものです。

・地図上に配置された写真は砂川でかつて使われていた地域の呼び名が現在でも確認出来る標識やバス停です。今でも通称として親しまれています。



過去と現在をつなぐ「道」

土地の名前は、その地域の特徴を反映して名付けられたものや、開拓を指導した人物、その出身地から付けられたものなど、成立の由来はさまざまです。

道の名前も行先の地名が道路名になることが多いですが、土地の名前がそのまま使われる場合や、神社・寺院への参拝や観光に行くための道であったことを示す場合もあります。

土地の名前や道の名前は、時代によって呼び名が変わったり、同じ場所でも違う土地の人々からは別の名前で呼ばれることもあります。その変遷を詳細に示すには多くの情報が必要になります。また、名前の由来がさまざまであるのと同様に、名前が使われなくなった理由もさまざまです。これらをつなぎ合わせることで、砂川の歴史をより深く知ることができるでしょう。

砂川の成り立ち

砂川の誕生は江戸時代までさかのぼります。江戸時代初期、江戸城改修と町の拡大のため、現在の多摩地域から資材や燃料を調達する街道のひとつとして五日市街道が整備されました。しかし、砂川をはじめとする、武蔵野台地の地域は火山灰質の土壤に覆われ土地は田畠として運用しづらく、水源にも恵まれなかったため、開発はほぼ手付かずでした。

そのような環境の中で、「砂川三番」辺りに砂川で最も古い井戸（まいまいいず井戸と呼ばれる様式の井戸）のひとつが掘られました。次第にこの辺りに人々が住みつくようになり、砂川の新田開発が進んでゆきます。江戸の水の確保のために人工の川・玉川上水が整備され、その後五日市街道に並行して流れる砂川分水が作られると、砂川の開発も本格化しました。



砂川の歴史の足跡を探して

「砂川○番」という呼び名は村や市が出来るより以前の「組」という地域の共同体からきています。かつて砂川では一番組から十番組までの組が存在し、通称としても長く使われてきました。各組ごとに地域の道路や水路の管理、住民全体で行う行事や農作業のとりまとめが行われてきましたが、合併後の町名地番整理により、その後は新しい町名が使われるようになりました。

今回の特集では、交差点の標識や道路の名前として今でも存在が確認出来る砂川の昔の地域名をまとめました。普段何気なく見ている名称から、昔の砂川を知る手がかりが得られます。

更に詳しい地域の名前の成り立ちは以下の文献をご覧ください。
立川市内の図書館で閲覧可能です。

- ・立川民俗の会 2010『立川民俗 第17号 砂川開拓開始400年記念号』
- ・砂川町 1963『砂川の歴史』
- ・立川市教育委員会 1978『立川変遷地図集』
- ・立川市立第九小学校 1980『あしづこ 立川市立第九小学校創立記念誌』



現在の幸町辺りを「下宿」、「はけ」、「田堀」など、更に細かく呼ぶ地名もかつてあり、砂川ではそういう通称が多く存在しました。古い地名は文書に残らないものも多く、今後多くの情報が必要です。市史編さん担当ではみなさんがご存じの情報や資料をお待ちしております。情報提供の案内は11ページをご覧ください。(山下)

玉川上水と五日市街道が交わる「天王橋」



町と人をつなぐ「橋」

道と道が交わるところに交差点ができるように、川と道が交わるところに橋は架けられます。玉川上水に架けられた橋で、昔からあるものは名前が変化したものもあります。その中でも特に重要なふたつの橋をご紹介します。

一番町にある「天王橋」は、砂川に古くからある橋のひとつです。南側にあった天王社が名前の由来とされ、かつては玉川上水を横断する街道の名前から「五日市橋」とも呼ばれていました。交通の要所として使われ、現在の天王橋交差点の交通量を見ても人が行き交う当時の様子がうかがえます。

砂川町三丁目の「金比羅橋」も村山（所沢）方面へ渡る村山街道と玉川上水が交差する場所にあったため「村山橋」と呼ばれていました。橋のそばには神社が祀られている小高い丘、金比羅山があり、現在の名前の由来となっています。

昔から交通の要所であった橋は、時代が変わつても多くの人に利用され続けています。いつも通る橋の名前に注目して、昔の砂川に思いを馳せてみてはいかがでしょうか。